

令和 8 年 第1回

当別町教育委員会定例会議事録

当別町教育委員会

令和8年 第1回 当別町教育委員会定例会 議事録

日時 令和8年1月14日（水） 午後2時00分

場所 当別町役場1階大会議室

出席者 三澤教育長、武岡教育長職務代理者、小林委員、大畑委員

出席職員 山田教育部長、高田学校教育課長、川田学校教育課参事、瀬戸学校教育課主幹

傍聴者 なし

【開会宣言】 教育長	ただ今、全委員出席しておりますので、これより令和8年第1回当別町教育委員会定例会を開催いたします。
【傍聴確認】 教育長	傍聴の方はいらっしゃいますか。 (「いません」の声) 傍聴がおりませんので、早速議事に入らせていただきます。
【議事日程】 教育長	日程につきましては、各委員に配付しております日程表に基づきまして議事に入ります。
【日程第1】 教育長	日程第1、議案第1号、令和7年度教育委員会表彰の被表彰者の選考及び決定について、事務局より説明をお願いします。
教育部長	議案第1号、令和7年度教育委員会表彰の被表彰者の選考及び決定について、1頁になります。 令和7年度教育委員会表彰の被表彰者の選考及び決定について、当別町教育委員会表彰規則第5条に基づき、委員会の議決を求めるものであります。 詳細につきましては、学校教育課長より説明いたします。
学校教育課長	ご説明申し上げます。議案につきましては、1頁から2頁目になります。 はじめに、芸術文化功績賞になります。今回は、個人の部で5人を候補者としてご紹介します。 書道の分野でございますが、国際書道協会が主催します第56回全国書道コンクールにおきまして、とうべつ学園8年 村田 愛梨 さんが、ペン字の部で特別賞一席の成績をおさめました。 また、とうべつ学園8年 川口 あやの さんが、第57回全国学生書道展において、特別賞五席の成績をおさめました。 また、札幌新川高校3年 山田 芽依 さんが、第76回毎日書道展アンダー23の漢字の部Ⅱ類におきまして、新鋭賞の成績をおさめました。 次に、絵画の分野でございますが、北海道造形教育連盟が主催します第51回北海道教育美術展におきまして、とうべつ学園5年 五東 砂夏 さんと6年 谷口 凧 さんが、共に奨励賞の成績をおさめたところでございます。 最後になりますが、芸術文化功績賞の長年の功績による表彰について、でございます。

	<p>当別町文化協会会長から、当別音頭を守る会の推薦がございました。本団体につきましては、当別町 100 年を記念して作られた当別音頭を長く郷土の文化として引継ぎ、当別音頭を通じて地域住民が広く交流を図る目的に平成 14 年 7 月に設立した団体でございます。</p> <p>文化祭や福祉まつり、当別神社例大祭などの町内のイベントに出演して、地域伝統文化の保存と普及活動に寄与しているところでございます。また、この功績から令和 7 年度石狩管内文化団体協議会文化奨励賞を受賞しているところでございます。詳細につきましては、議案の功績をご覧いただきたいと思っております。</p> <p>なお、令和 7 年度におきましては、説明を申し上げました 1 団体、5 個人が被表彰候補者となります。</p> <p>以上です。</p>
教育長	<p>ただいま提案の説明がありました。質疑を求めます。質疑ございませんでしょうか。</p>
大畑委員	<p>絵画の北海道造形教育連盟の美術展は、以前から出していたものなのかと、奨励賞というのは、どの程度の賞なのか。</p>
学校教育課主幹	<p>昨年も同じように北海道造形教育連盟が主催する北海道教育美術展で奨励賞をとって表彰の該当となった方はいます。また、北海道教育美術展ですが、幼稚園、小学校、中学校から総数 6,505 作品応募があって、その中から奨励賞が、幼稚園、小学校、中学校合わせて 100 点だけになる賞となります。</p>
教育長職務代理者	<p>北海道新聞に、五東さんだったかと思いますが、写真、絵が出ていました。だから、凄いなと思って、これは価値があるなというふうに思いました。</p>
教育長	<p>他にございませんか。</p> <p>(「ありません」の声)</p> <p>それでは、ないようでございますので、議案第 1 号は原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>それでは議案第 1 号は、原案のとおり決定いたします。</p>
【日程第 2】 教育長	<p>次に、日程第 2、協議第 1 号、令和 8 年度当別町教育推進計画案について、事務局より説明をお願いします。</p>
教育部長	<p>協議第 1 号、令和 8 年度当別町教育推進計画案について、3 頁になります。</p> <p>令和 8 年度当別町教育推進計画について、委員会の協議を求めます。</p> <p>詳細につきましては、学校教育課参事より説明いたします。</p>
学校教育課参事	<p>説明させていただきます。別冊のほうにオレンジ色を基調にしました令和 8 年度当別町教育推進計画案がパソコンのデータのほうに載っていると思っております。また、紙で、石狩管内の来年度の重点も配らせていただいておりますので、作成にあたって、昨年度までの当別町の取組をさらに発展させて深めていく視点と石狩管内の重点との関連を意識しながら作成させていただきました。</p>

令和8年度の重点目標を、当別町が推し進めている教育の理念を表す言葉として、全ての子どもを社会と未来へつなげるとしました。また、重点目標を達成させるための手立てを明確にするため、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を通してこのサブタイトルを付けさせていただきました。

重点となる柱は3つあり、全ての柱において、学校の取組内容を5点、学校の取組が促進されるように教育委員会が推進する内容を5点、挙げております。

柱1の学習指導の重点課題を、確かな学力の定着と生きる力の育成としました。確かな学力を育成することはもちろんですが、子どもたちの心もしっかり育てていきたいという思いから、生きる力の育成という言葉を入れ、知・徳・体の育成をバランスよく推進していきたいと考えています。また、サブタイトルとして、教師の質を高める日常実践の充実としました。学校生活のほとんどの時間が授業に割り振られておりますので、授業の中で着実に子どもたちに資質・能力を育成していきたいとの考えからです。

取組内容の委員会の欄の4つ目には、AIドリルの活用推進を、昨年度に引き続き挙げさせていただいております。町として予算を付けて、保護者負担をさせない先進的な取組が行われている半面、活用の頻度が多くないという状況が見られております。活用を促進することにより、当別町の課題である算数・数学の基礎基本の定着やつまづきの解消にもつながると考えているためです。また、5つ目には、とうべつ未来学の充実を挙げました。当別町のめざす子ども像である、自らの未来を拓きやがては町の未来を拓く子どもを育成するためには、当別の現在の姿や開拓の歴史を探究的に学ぶ活動の充実が欠かせないと考えたためです。

柱の2つ目の生徒指導の重点課題を児童生徒のウェルビーイングの向上としました。重点課題の達成のために、サブタイトルを子どもの安心・安全を確保する学校風土の醸成としました。学習指導と生徒指導を一体的に進め、安全・安心な学校風土の醸成が、子どもたちの健やかな成長には欠かせないものだと考えたためです。また、当別町が進めている校内・校外の教育支援センターや心のコーディネーターの配置、メタバースの活用などは、道内でも先進的な取組であると考えます。それらの連携をさらに強化することで、多様な子どもたちへの多様な学びの場の確保に努めるため、取組内容の委員会の欄の2つ目に、子どもたちの学びを守る支援体制の深化を挙げさせていただいております。

柱の3つ目、地域と共にある学校の重点課題を地域と共にある学校づくりの推進とし、サブタイトルを全ての子どもの育成を支える環境づくりとしました。令和8年度の重点課題である全ての子どもを社会と未来につなげるため、学習指導と生徒指導の一体化により、子どもたちを健やかに成長させるためには、学校・家庭・地域・行政が連携して、当別の全ての子どもたちをオール当別で育てる環境が欠かせないと考えたためです。社会教育とも連携した学力・

	<p>体力向上に向けた取組や令和9年度完全移行に向けた部活動の地域展開の取組を進めます。また、柱1の学習指導のところでも触れましたが、取組内容の学校の欄の5つ目に、当別の歴史と姉妹都市に関わる学習機会の拡充、委員会の欄の5つ目に、姉妹都市交流の継続的な推進を挙げました。姉妹都市への使節団の派遣事業の推進や最終的には修学旅行の行き先を歴史兄弟都市や姉妹都市にしていく検討をすることによって、とうべつ未来学の充実を図るために推進していきたいと考えております。</p> <p>以上、令和8年度の当別町教育推進計画案の説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。</p>
教育長	<p>ただ今、提案の説明がございました。協議事項でございますので、忌憚のないところでご意見をいただきたいと思ひます。お願いたします。</p>
小林委員	<p>生徒指導の委員会の欄に、働き方改革推進の支援、括弧、教育環境整備とありますが、生徒指導に馴染まないと思ひます。教育環境整備というのだったら、馴染むような気がする。石狩管内の教育推進の重点を見ると、生徒指導のところにこの文言があるのが、馴染まないと思ひます。教育環境整備なので生徒指導にはなるのだけれども、働き方改革の推進の支援という言葉が、お題目であるのであったら、少し馴染まないと思ひます。教育環境整備なら馴染む感じがする。括弧を逆にする、教育環境整備、括弧、働き方改革推進の支援のような感じにすると馴染むなど見ていた。</p> <p>そういう解釈なのか、解釈は色々あると思ひますが、字を見ているとそのような感じがした。言っていることはわかる。理解できている。</p>
教育長	<p>文節を短くしている分だけ、含んでいるものが見えにくいというご意見だと思ひます。</p>
小林委員	<p>他のところも端折ってはいるが、それはわかるが、ここに関して言うと、生徒指導と働き方改革推進の支援というのは、ちょっと違うと思ひます。石狩管内のものを見なければ変に思わなかった。石狩管内のものを見てしまったから、あれとなった。</p>
教育部長	<p>委員さんのおっしゃるとおりだと思ひます、ここの言わんとしているところが、先ほど説明した人の配置の部分のことが強いということを考えると、今、おっしゃったように、括弧を逆にすることが、今、出た意見に変えた方がいいかなと、確におっしゃるとおりだと思ひましたので、他の委員からもこの点に関してご意見があれば頂戴したいと思ひます。いかがですか。</p>
小林委員	<p>教育環境整備の支援にすると、全部が網羅される。働き方も含めてSSWなど、全部が含まれると生徒指導につながると思ひます。</p>
教育長	<p>教育環境を教育委員会として、豊かにすることによって、先生方の働き方を改革して、最終的には、本来業務をやっていただけのようにするところなので、それがそういうふうには聞こえないということですね。良いご意見をいただいたと思ひます。</p>
教育部長	<p>基本、括弧を逆にする形で、少し文言を付け足すような文言の修正、意味は</p>

	理解していただいて、皆さん同じ意識だと思うので、そこは修正させていただきたいと思います。
小林委員	CS 機能を生かした望ましい生活習慣・学習習慣の定着とあるが、具体的にどういったことを掲げるのか。今まで、CS が、生活習慣や学習習慣の定着まで踏み込んで、学校の中でやっているということが、あまり、僕は知らない。むしろ、PTA のほうがやっているのかなという気がするので、それは、どういうところを目指しているのかなと思いました。
学校教育課参事	石狩管内の重点のところ、望ましい生活習慣と学習習慣の定着という文言が入っているのですけれども、要は、子どもたちのしつけの面であったり、家庭と協力して進めていかないといけないものを学校だけで進めることは難しいので、今、小林委員のほうからありました、PTA だとか、例えば、CS でお父さん、お母さんとかと協力しながら啓発のための研修を行ったりだとか、そういうような取組をとおして、子どもたちの教育に関わる部分と家庭のしつけに関わる部分を推進していけたらなという思いで書かせていただいております。
小林委員	そうすると、CS 機能というのはおかしいと思う。CS 機能だけではない。例えば、地域のという言葉を手く使うとかもあると思う。
教育長	当別の CS の活動というのは、正直、とても限定的なのですよね。それで、もっともっと、私は元十勝にいましたけれども、元いました清水町は、もっともっと具体的で、しかも、地域とも、親とも密着した感じの活動をやっている。ですけれども、当別の場合、少しそこところが、まだそこまで浸透していない。
瀬戸委員	接する場面がないというところが、正直なところなのですよね。
教育長	CS を作る段階で、当別の場合は、先に小中一貫をやるために、CS が付随しなければならないというところで、慌てて作った部分があって、そこらへんがどうも浸透しきれてないままコロナになってしまった。それが1つと、教育委員会が出だしにおいて、関りが薄かった。それではなかなか進まないねということで、最近になってから CS は本来こういうものですよというところから研修をやり直したりということで、少し動き始めていただいているという状況です。それで、PTA の役割と CS の役割を無理に分けている感じがあって、本来的には、もっともっと一体的で全然構わない。それから、地域の様々な団体であったり、地域でボランティアをしてくださっている方々とも、一体となって動いていただくのが、CS の本来なのですが、それが、ちょっとまだ活動できていない。
小林委員	教育長が今言われたこと、立ち上げから関わらせていただいて、教育委員会がもっと関わったほうが良いということを書いていた立場で、それで、敢えてこの CS 機能を生かしたというので、僕が聞きたいのは、何を目標しているかということを知りたい。どういうふうにしてその人たちを使って、生活習慣や学習習慣の定着というのを目標するのか、学校側が目標していくのか。そこをどういうふうにして、持っていくのかというのが聞きたいだけで、CS は関係な

	<p>いではなくて、今までの歴史の中で、当別の CS はそこまで関われないというか、敢えて、教育委員会も関わらせていなかったと思う。学校の校長先生も嫌がっていたのかもしれない。</p>
<p>教育部長</p>	<p>そこがやっぱり課題なのですよ。逆に言うと、その部分をこのような形で計画の中に盛り込んで、教育委員会としてもどんどんやっていくのだというところを示すのも一つ大事かなと思っている。</p>
<p>小林委員</p>	<p>目指すところがわからないから…。</p>
<p>教育部長</p>	<p>目指すところについては、まずは、学校が困っているところを助けるのが CS だと思っているので、この生活習慣だとか学習習慣、要は、家庭学習、早寝・早起き・朝ごはんもそうですが、そういった部分は、なかなか学校が入り込んでいけない部分じゃないですか。困っているところを、まずは、CS の皆さんとどういうふうにして、そこをやっていけるのかというところをまずは話をし、もっと学校が CS に頼って、そういった困りごとのところをやってもらうために、学校側でやるべきことで、今、載っているというのが、私たちの思いです。これは、今回初めて載せていて、1 年間で完成形になるとは思っていないのですが、まずは、その取り掛かりとして、CS としっかり組んでやっていってねというところを盛り込んでいるというような形です。</p>
<p>小林委員</p>	<p>部長の言っていることはわかりますが、ぼんやりしている。今まで、13 年間教育委員をやってきて、それがなかったの。代理もいらっしまったので、当時、代理と僕とでこうやったほうが良いと校長先生にも言ったし、委員会でも言ったし、ただ、委員会としては、まだ CS が始まったばかりなのに、事務局として最初はいたほうが良いと話していた。慣れてきたら離れるようにと。いきなりパッとセッティングして、すぐ離れた。それでは、何もまとまらない。それで、十勝もそうですけれども、色々ところで、CS の取組、この前行った安平もそうだし、安平はコーディネーターがやっている。そういうことも全部聞いているから、できないことはないのはわかっているが、10 年くらい進まなかったことを載せたことによって、どこまで種を植えられるかということとは、凄く疑問です。</p>
<p>教育長</p>	<p>確かに、おっしゃるとおりです。やはり CS を本格的にやろうと思うと、専門のコーディネーターが必要なのです。それって、学校のことも、教育委員会のことも、社会教育のことも精通しているような地域に根差した方、例えば、役場の職員を長くやっていらして、教育委員会でもお仕事をされたような経験のあるような方が退職して、そういう方がなったださるといいのですが、そういう人材がいて、つなぎ合わせていかなかいと、なかなかうまくいかない。私も実際に経験していて、質のいいコーディネーターが入ってくると、いっぺんに動く。ただ、なかなか単独では、それぞれの団体を結びつけることが難しく、今、おっしゃるように、そういうようなことまで、教育委員会として積極的に踏み込んだ中で、この CS 機能を生かしたという言い方をすれば、実際に、何を目指していくかわかるよねって、きっと、小林委員はおっしゃって</p>

	<p>くださっていると思うのですけれども、そういう部分も、うちとしても中途半端といえは中途半端になったのかなと思う。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ここ2年くらいで、専門家の方を呼んで、まずは、お互いのCSにどういうものかという話を聞いてもらって、足りない部分やこういうこともやるのだということは、若干ですけど、この2年間を通じて、こういうことをやっているのだということと、あと、お互いの活動を見たことがなかったので、当別地区ではこういうことをやっているのだ。では、うちも何かやろうかねとか、まだまだ低いレベルですけど、少しずつ意識が変わってきているところであるのは、事実です。当然、目指すところはたぶんここなのですけれども、いきなりここに上げるとというのが、かなり難しいので、まず、どの事業もそうですが、取り掛かりとして、CSを動かすのだという部分の植え、そこをしっかりとやらなければならない。地域と共にある学校づくり、これはCSのことをそのまま言っている。ただ、敢えてそこにCSという言葉を入れずとも、この目的を達成するためには、CSを動かすしかないというのは、一つなのです。だから、そこに敢えてこの言葉を入れることで、より理解してもらおうというところがあって、確かに、では何をやればいいのか、どこまでやればいいのか、というのは、出てくる。ただ、何をやればいいのか、どこまでやればいいのかも学校が考えなければいけない。そこを教育委員会が計画で示してしまうと、それが、ゴールになってしまうので、もっと各学校でCSにやってもらいたいことというのは、様々違うと思うので、そこも含めてまずは、もう1回最初から、今あるCSだけではなくて、小林委員が言ったように、他でうまくいっているCSも見てもらったりして、そういうことも含めて、あるから続けているだけではなくて、機能させるために、一緒にやっていくために、考えてよという意味も込めています。まだまだ、可能性があるのに、委員さんもそうだし、学校側もそうだし、何をやればいいのかだろうなということもあるとは聞いていたので、そこを、今更、一からという遅いよということもあるかもしれないが、もう1回きちんと考えていったほうがいいのかというのは、すごくあります。言葉がそこまで伝わらないよねと言われたら、確かに、そのとおりでもあるので…。</p>
<p>小林委員</p>	<p>このタイトルだけでは、ちょっと、僕が今まで経験している中で、何をしたいのだろうと思った。だって機能してないのだから。機能してないのに、機能を生かしたというのは、機能をしてないものを生かすことなんてできるわけがないから。</p>
<p>教育部長</p>	<p>そうなると、CSを生かしたとするほうがいいですね。機能してないのだから生かそうと。</p>
<p>小林委員</p>	<p>若しくは、CSをより生かしたとするか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>そうですね。</p>
<p>教育長</p>	<p>機能を取ったらどうでしょう。</p>
<p>小林委員</p>	<p>それで、学校側にもある程度優しく説明ができるようにしたほうがいいと思う。</p>

教育長	CS だけにしないで、CS 等、などにしたほうがいいのでは。
小林委員	CS の下の学校教育への地域人材の活用促進ってあるじゃないですか。これとこれが足されればいいなと思う。
教育長	そうなのです。下の学校教育への地域人材の活用促進というのは、正しく、地域学校協働本部なのです。ただ、地域学校協働本部も当別の場合は、CS と完全に分かれてしまっている。本当は、これってもっと一体感があるものなのです。ですけれども、地域学校協働本部は社会教育の仕事にきちっと割り振られていて、コーディネーターもそっちに行くと、CS のほうとは関りが切れてしまっている。
小林委員	本当は、合わさるような感覚だった。それを合わせなつた。
教育長	学校にいっぺんに色々な負担を掛けたくないという思いが、ちょうど学校を作るときであったので、あったのかもしれませんが。
小林委員	学校を作る時だったので、解体して作るという話もしていた。最初から1回やり直しましょうと代理とは話していた。最初から組換えようという話をしましたよね。
教育部長	<p>おそらく、やはり最初の時に、CS とは何ぞやということが、なかなか委員会としても理解をしてから進むよりも、まずは作らなくてはという思いが強かったのかなというのが、最初の頃を見ているとすごく感じます。</p> <p>ここまで年数が経ってきて、先進地もありますし、うちの課題を見た時に、ボランティアのほうにも課題があって、登録数はあるけれど、なかなか活用されていないということがあって、せっかくあるのだから活用しないとねっていうところで、今年は、家庭科か何かでボランティアさんが入って行って、調理実習をやったということが実績として出てきて、学校側も、こういうふうをお願いできるのだというのは、理解されたと思う。学校教育と社会教育と課が分かれているばかりに、近いけどなかなか隣が見えていないというところがあるので、そのへんは、教育委員会として、一体化していく方向というのは、必要かなと思っています。ただ、今、現時点で、来年度に向けてそこまでには至ってないので、ただ、お互いのせっかくある制度については、活用していかないとねというところを2段書きで2つ入れております。</p>
小林委員	そういうのが、色々と進んでいくと、部活動の地域展開が合わさっていく。だから、そこが全部一緒になっていく。そういうことを僕は期待しているが、なかなか、その歯車の一つのものが、そのままいく。何回も言うのですが、そこが気になっている。
教育部長	ここは、CS などを生かしたという形でいかがでしょうか。
小林委員	それは、全然。ただ、含みの部分というのも学校がもっと理解をしていただいといるところは、お願いしたいです。
武岡教育長職務代理者	一番右側の委員会の上から3つ目、有識者・実践者を講師とした「CS 学習会」の充実、CS というのは、本来の目的の一つに学校長の運営方針に対して、意見が言えるというのが、最初の大きな目標であった。そうすると、CS 学習会

	<p>の中で講師について、そういうことをきちっと入れてあげてほしいなということが一つと、今出た、CSなどを生かした望ましい生活習慣・学習習慣の定着というのは、本来CSというのは、学校も、もちろん校長も入ってきますけれども、CS本体で学校に対してどういうことをしたいかということが先にあるので、CSのほうで、望ましい生活習慣・学習習慣、これが定着しないとだめだよなということになれば、こういうことになると思うのですけれども、果たして…。などですからいいのですが、CSもそういうことをやってほしいと言うのはいいのだけれども、学校のほうが、CSに対して、お願いするようなことなのかなって思う。CS本来の目的を考えた時に、学校のやっていることに対して、おかしいじゃないかという、それから、こういうふうにしたほうがもっと良くなるのではないかというのが、CS本来の根っこにある考え方ではなかったのかなと思う。人事権については、除かれましたけれども…。などだからいいのです。主体がどちらか考えた時に、CSの方が主体であって、学校は言われたことに対してどうかと考えていくのが学校だと僕は考えるから、そのところをおさえていたほうがいいのかなと思う。文言は、これでいいです。それが一つと、この計画というのは、最初に北海道の教育目標があって、石狩管内があって、当別町があって、当別町のこれを踏まえて、学校ではこのことについて、具体的にどうするかという手順ですよ。そうすると、石狩管内と比べた時に、生徒指導のところ、当別町で今一番問題になっていることは、いじめ、不登校の問題だと思う。そこが大きいなと僕は思っている。そうすると、石狩管内には、いじめ、不登校のことが、それから、配慮が必要なお子さんのことが、出ているのだけれども、これ全部、この言葉の中に入っているのです。提要に基づくと、未然防止・早期解決につなげる生徒指導の充実、それから、子どもの居場所の確保、多様な子どもたちというのもそうです。みんな入っているのだけれども、石狩管内に比べると、基本的には、いじめ、不登校という言葉がどこかで入った方がいいのかなという気がした。ここの部分だけ逆転しているのかなと少し思ったものですから、どうなのかなというふうに感じました。これは、議会に出すかどうかわかりませんが、これは具体的にどういうことなのだと聞かれたときには説明ができると思いますけれども、パッと見た時に、一瞬、あれ、どうなのかな、いじめ、不登校、配慮が必要なお子さんはどうなっているのかなと思われないかなと、感覚として。計画の在り方としてどうなのかなと少し思った。全部網羅されていると、僕らはわかる。</p>
小林委員	網羅されている。
教育部長	<p>いじめ、不登校のところの話からさせていただくと、この前の議会で、正しく、いじめ、不登校についても質問があって、いじめと不登校は、当然、違うところになるので、これを並列して話しをしていいものかと、その時は、非常に考えました。局とすると、たくさんある中で、並列でいじめ、不登校という形で書いているのですけれども、町に降りるときには、もう少し具体的にしたほうがいいのかということ、敢えて、いじめに対する部分と不登校に対する</p>

	<p>部分とに分けて、整理させてもらっています。ただ、この中に、いじめ、不登校という言葉自体が入っていないという部分で言うと、確かに分かりにくいのかなと思う。ただ、代理がおっしゃるとおり、中を見たらわかるのだけどねというのは、そうなのですとしか言えないのですが、この文言でいったときに、学校側からすると、これはいじめの部分だなということと、これは不登校対策だなというのは、理解していただけるものと、当然、そういうところでの言葉を敢えて入れないということにしております。</p>
教育長職務代理者	<p>わかりました。学校の運営計画の中には、これを具体化するわけですから、そういうことが入ってきますよね。</p>
教育部長	<p>そうですね。また、CSの部分は、お二人のお気持ちはすごく私も理解できる場所であって、正しく、CSの中の一番になるのは、学校に対してそういった指導助言であって、そこについて、確かに、この中からは読み取れないなど、おっしゃるとおりだなと思っています。それで、委員会とすると、その部分も含めて、当然、学習会の中ではそういったカリキュラムもやっていかなければならないかなというふうに思っているのと、ここの地域と共にある学校づくりの推進という観点でいった時に、主たる目的ではないかもしれませんが、地域と共にあるというところで、CSの活動というのにも必要となってくると感じているところなので、その部分を計上しているところです。</p>
教育長	<p>一昨年になるのですけれども、西当別地区のCSには、CSの委員として、教頭達が入っていた。それで、今、正しく、代理がおっしゃるように教頭先生が、校長先生の経営方針を良いとか悪いとか判断するのはおかしいじゃないですか。あくまでも教頭先生の立場というのは、事務方として、事務局として、つなぎ役として存在するのであればいいが、そこがまず違いますよねという話をして、最終的にCSの委員から教頭先生を抜いた。そもそも、立ち上げの時から、そういうちょっとした解釈の違いというのがある。それがまず一点と、それから、代理がおっしゃった人事についての意見を言えるという部分について、本当は、CSの存在意義として、とても大きな部分なのですけれども、なぜかこのCSは、その部分が削除されている。規約の部分で抜けている。それは、たぶん、立ち上げる時に、あの先生をどこかに飛ばしてくださいとか、この先生を呼んでくださいとかみたいなことをCSの委員さんに言われては困るという学校側の反対があったのだろうと推測をします。でも、全然、そういうことではなくて、地域にとって、望ましい先生に来ていただけたら、学校の運営がより豊かになる。それから、子どもたちにとって、より良いですよという意見をCSの方々に言っていただけというセンテンスなのです。そこは、CSにとって非常に大事なところなのですよ。だけれどもそこは、なぜか当別の場合は、クリアできてなかった。やはりそこは、スピードを重視したのですよね、きっと。立ち上げの段階でそこがうまくいかなかった地域というのは、当別だけでなく結構あるのですけど、そこは、目的からすると大事な部分で、だからこそ地域と学校の信頼関係がちゃんとできていないと、その解釈がず</p>

	<p>れていく。一方的に学校側が否定されるという存在だとか、それから、一方的に校長先生が意見されるような感覚で捉えられてしまうと、CS そのものがうまく機能していかない。そのようなことも含めて、研修を繰り返しながら、学校にとってもメリットのあるところをお知らせしていきながら、みんなで高めていきたいというふうに思っています。なので、是非、これからも委員さんのそういうご意見は非常にありがたいことなので、ご指摘いただけて感謝をしております。</p>
小林委員	<p>規約の改定はできないのですか。そこの文言を足すことはできないのか。</p>
教育長	<p>できます。</p>
教育部長	<p>委員会で作っている規約では、そもそもないからですよ。</p>
教育長	<p>CS で作っている。そもそも規約があるのがおかしい。</p>
小林委員	<p>西もとうべつ学園もその文言はないのか。</p>
教育長	<p>ないです。</p>
小林委員	<p>それぞれでやってもらって、足したらいいのではないか。</p>
教育長	<p>他にご意見ございませんでしょうか。 (「ありません」の声) 気が付いたところがありましたら、ご意見いただければと思いますので、委員さんの客観的なご意見をいただきながら、委員さんからの意見をいただいた上で、校長先生に降ろす段取りになっているので、そこも含めて完成形ではありません。何かありましたら、後でも結構ですので、ご意見いただければと思います。 それでは、これについてはよろしいでしょうか。 (「はい」の声) それでは、今、ご意見いただいたような方向性を持って、変えるところは変えて進めて参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>以上で、令和8年第1回当別町教育委員会定例会を閉会いたします。</p>

閉会 午後2時50分

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

当別町教育委員会 教 育 長

教育長職務代理者